ねえ、唯。

阿傘　唯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねえ、唯。

【Ｎコード】

Ｎ４８６８ＢＡ

【作者名】

阿傘　唯

【あらすじ】

小説『ｃａｓｅ』『ｄｅｊａｖｕ』に登場する主人公『唯』とヒロイン『七海』の会話劇です。ほぼ『ギャグ』と『下ネタ』と『パクリ』しかありませんので、注意して下さい。『阿傘　唯』のＴｗｉｔｔｅｒにも掲載してあります。そちらも合わせてよろしくお願い致します。

ねえ、唯。曽野１（前書き）

下ネタがお嫌いな人はおいしく召し上がれない可能性がありんす。

ねえ、唯。曽野１

「へえ。これが『Ｔｗｉｔｔｅｒ』ていう猥褻な玩具なのね？」
「うわっ！？急に七海さん降臨してきたっ！？てことは、これってＴｗｉｔｔｅｒオリジナル！？てか『猥褻な玩具』て！？」
「だってそうでしょう？何だって書き込めるんだもの、私だったら○○な事を××に凹凸してヤりたくなるのも当然でしょう？」
「何をする気っ！？そして、それらの記号には、いったい何がっ！？ちなみに『凹凸』はれっきとした漢字ですっ！」
「あら、唯にしては博学じゃない。御褒美に私のパンツをあげるわ。」
「いらんわっ！てかここで脱ぐなっ！…！こら！あ…頭に被せるなっ！『変態仮面』みたいになるだろ！？」
「これで貴方も念願の『変態紳士』の仲間入りね？」
「願ってねえ！？しかもこれじゃただの変態だしっ！？どう見ても紳士に見えねえ！てか確実に捕まる！」
「お仕事行ってらっしゃい☆あなた。」
「『お勤め』！？僕『お勤め』に行って来るの！？なんかその☆がムカつくし！？」
「大丈夫よ。あなたの灰は、トイレに流しておくから。」
「『海』に流してっ！？『トイレ』って怖っ！？てか獄中で死にませんからっ！？死んでも死にきれませんからっ！」
「私の『Ｙｅｓ，Ｎｏ枕』に出てきてもいいわよ。」
「『夢枕』ね！死んでまで『Ｙｅｓ，Ｎｏ枕』に出てくる僕ってなんて肉食系！？こっぱずかしっ！？」
「私って、なんて『厚化粧の女』なのかしら。」
「『魔性の女』ね！おばはんかっ！？」
「今、何か言った…？」
「いえ…何も…。」

僕は冷や汗をかきながら、青筋の立っている七海から、目を逸らした…。

ねえ、唯。曽野1（後書き）

ネタ切れ注意報発令中。

ねえ、唯。曽野2

「ねえ、唯。『七海様の可憐なお足に踏みつけにされたいです。』って言ってみて？」
「うん、いいや。」
僕は、七海の言う事を無視して、勉強を続けた。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「ねえ、唯。『隣の客は、よきゅ、きゃききゅうきゃくだ。』って言ってみて？」
「うん、言えてないからいいや。」
僕は、七海の言う事を無視して、勉強を続けた。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「ねえ、唯。」
「あんだよ！」
「『隣のガキは、よく夏期講習に来る女子生徒を喰うガキだ。』って言ってみて？」
「言えるかっ！？どんだけ破廉恥なガキなんだよそいつはっ！？勉強しようよ勉強をっ！？」
僕は、七海の言う事を無視できず、勉強を中断した…。

ねえ、唯。曽野２（後書き）

次はクリスマスの時の会話です。

ねえ、唯。曽野3（前書き）

好きな人とキスしたいじゃん。

ねえ、唯。曽野3

「ああ、そう言えば今日って、クリスマスイブじゃんか。」
「なあに、唯。私へのプレゼントでも考えているのかしら？」
「いや、そうじゃなくて、今年もあと少しで終わっちゃうんだなって。」
「『なあに、唯。私へのプレゼントでも考えているのかしら？』」
「…。なんか欲しいなら、欲しいって言えよ…。」
「私が欲しいわ。」
「『あなたが欲しいわ。』にしてっ！？もしくは『私が欲しいんでしょ？』とかっ！？それだと僕、空気みたいな存在になっちゃうからっ！？すっごい寂しい！ホントすっごい寂しい！！」
「ごちゃごちゃとうるさいわね。外すわよ。」
「え！？どの部分を！？どうやって！？それって再取り付け可能！？やっべ、すっごい不安になってきた！」
「知りたい？」
「うん、すっごい知りたい！…いや！知りたくない！？…いやでも、こっそりとなら聞いてみたいかも！？…ああっ！？僕はどうしたら…！？」
「あ、出来たみたい。ほら、唯。そんなとこで頭抱えてないで、それ外して。」
「『お鍋のフタ』かいっ！？久しぶりにクリスマスだからって手料理作ってくれたんだよね？ってまぎらわしっ！？」
僕は、言われた通り、圧力鍋のフタを外した…。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「なあ、七海。」
「うん？なあに？」
「…メリークリスマス。」
「何よ。急に…。」
「いや、僕さ…。美樹や真夜以外の人とクリスマス過ごすのって、初めてだなって思って…。」
「私だって、そうよ。」
「え？」
「私だって、そう。誰かとクリスマスを過ごすのは…。だって、ずっと、ず～っと、『一人』だったんだもの。」
「…ごめん。そうだったよな…。」
「ううん、いいの。それが私の『宿命』だったし。今は、もう、違うから…。」
「『違う』？」
「そう。『違う』。今はあなたもいるし、美樹ちゃんや真夜ちゃんもいる。私は、もう、『一人』じゃ、ない。」
「七海…。」
「唯。メリークリスマス。」
「うん…。メリークリスマス。」

僕らは、クリスマスの聖夜に、お互いから、キスをした…。

ねえ、唯。曽野４（前書き）

注）レイ君は男の子です。

ねえ、唯。曽野4

「やあ、唯君。奇遇だね？」
「レイ！？お前が何で、ここに出てくんだよ！？タイトルに『ねえ、唯。』ってあるだろ！？」
「僕の愛があっての事だよ。君に対しての。」
「そんなもんいらん！てかこんな時間に家の窓辺に現れるなっ！ちょっと、ちびっちゃっただろ！？」
「あは！やっぱ可愛いね、唯君って。阿傘さんが好きになるのも頷けるよ。」
「可愛いって…。」（なんかこいつ気持ち悪い…。）
「そんなに見つめないでくれよ。感じちゃうだろ？」
「うんやっぱりお前気持ち悪い！もう帰って！今すぐ帰って！！」
「そんなに照れなくてもいいだろ？イヤよイヤよも…。」
「好きなうちに入るかっ！？死ねっ！？」
僕は勢いよくカーテンを閉め、塩をまいて床に入った…。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「やあ、唯君。また会ったね。」
「また出た！」
「そんな、人をオバケみたいに言わないでくれよ。」
「ある意味オバケより怖いぞ…。」
「今日は言っておかなければならない事があって、君に会いに来たんだ。」
「どうした？そんな真面目な顔をして…。」
「実は、僕は…。」

「うん？」
「『男』なんだ。」
「うん知ってる。」
「！！！」
「なんだよ、いったい…。」
「なのに、なのに君は、僕のこの愛を、受け止めようとしているなんて…！！君は、なんてスウィーティーベイベーなんだっ！」
「…。」
「…！ゆ、唯君！？ど、どうして僕の襟首を掴んで、ゴミ収集車の方へ向かうの！？」
「うん。何となく、こうした方が地球の為だと思って。」
「僕は地球の汚染源！？あ…、せめて…、リサイクルに出して…！」

その後、九真桐　零は、帰らぬ人となった…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4868ba/

ねえ、唯。

2012年1月14日10時55分発行